

# ベストプラクティスを使用したHyperflexアップグレードの実行

## 内容

---

### [はじめに](#)

### [前提条件](#)

#### [要件](#)

#### [使用するコンポーネント](#)

#### [アップグレード前の手順](#)

##### [バージョン選択](#)

##### [互換性](#)

##### [アップグレードガイド](#)

##### [考慮事項](#)

### [アップグレード前ツール](#)

#### [ハイパーチェック](#)

#### [Intersightヘルスチェック](#)

#### [Intersight HealthCheckデモ](#)

#### [指導用ビデオ](#)

### [重要な検証](#)

#### [UCSMでの未使用パッケージの削除](#)

#### [アップストリームスイッチでスパンニングツリーポート\(STP\)PortFastが有効にされているかを確認する](#)

#### [ファブリックインターコネクトポートまたはアダプタでの物理ポートエラー](#)

#### [標準クラスタおよび拡張クラスタでのストレージデータVLANのアップストリーム設定](#)

#### [MTUおよびフェールオーバー](#)

#### [テストアップグレードの適格性の実行](#)

#### [ユーザとパスワードの検証](#)

#### [メンテナンスモードへの切り替えの検証](#)

#### [vMotionConfigurationの確認](#)

#### [クラスタでEVC\(Enhanced vMotion Compatibility\)が有効になっていることを確認します。](#)

#### [仮想マシン\(VM\)でのアフィニティルールの確認](#)

#### [ESXiエージェントマネージャ\(EAM\)](#)

#### [SSHの推奨事項](#)

##### [HXUSERロックアウト](#)

##### [ロックダウンモードまたは停止](#)

#### [複製](#)

#### [ドライブ障害](#)

#### [以前のマザーボードの交換、再導入、およびノードの削除](#)

#### [HXとvCenterの不一致](#)

#### [HyperFlex vCenter再登録](#)

### [関連情報](#)

---

# はじめに

このドキュメントでは、HyperFlexクラスタのアップグレードプロセスを正常に実行するためのベストプラクティスについて説明します。

s

## 前提条件

### 要件

次の項目に関する知識があることが推奨されます。

- Unified Computing System Manager(UCSM)
- Cisco インテグレートド マネージメント コントローラ ( CIMC )
- HyperFlex
- Elastic Sky X統合(ESXi)
- vCenter
- Intersight

### 使用するコンポーネント

- HyperFlex Connect 4.5(2e)
- UCSM 4.2.(1f)
- Intersight
- vCenter 7.0 U3

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されました。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、クリアな ( デフォルト ) 設定で作業を開始しています。本稼働中のネットワークでは、各コマンドによって起こる可能性がある影響を十分確認してください。

### アップグレード前の手順

#### バージョン選択

選択したターゲットバージョンは、HyperFlex環境のニーズに基づいて決定されます。その目的は、古いソフトウェアから新しいソフトウェアを改善、修正、および活用することです。

新機能、新しくサポートされるハードウェア、コンポーネント間の相互運用性、ガイドライン、制限事項、セキュリティ修正、解決済みの注意事項などの情報については、HyperFlexのリリースノートを参照してください。

リリースノートの情報を確認するには、[ここをクリックしてください。](#)

## 互換性

Hyperflexクラスタアップグレードを実行する前に、すべてのバージョンに互換性があることを確認します。シスコは次を推奨します。

- HyperFlex、Unified Computing System(UCS)、およびESXi/vCenterの各バージョンの相互運用性を確認します。
- ターゲットのHyperFlexターゲットバージョンでサポートされているすべてのハードウェアモデルを確認します。
- Cisco HyperFlexソフトウェアの要件と推奨事項については、[ここ](#)を参照してください。
- 記載されているすべてのUCSおよびVMwareバージョンは、シスコによって推奨され、高度にテストされています。
- シスコでは、より信頼性が高く、高度にテストされたHyperFlexバージョンを推奨しています。
- 推奨されるHyperFlexバージョンは、金色の星が付いています。[ここ](#)を確認してください。

## アップグレードガイド

実行する手順が記載されたCisco HyperFlexアップグレードガイドを確認します。

このガイドでは、次のようなさまざまなタイプのシナリオに関する情報を提供します。

- 統合アップグレード。すべてのHyperFlexクラスタコンポーネントのアップグレードが必要
- 個別のアップグレード。HyperFlexクラスタコンポーネントの1つをアップグレードする必要がある
- オフラインアップグレード。HyperFlexクラスタをシャットダウンする必要がありますか。
- クラスタタイプに応じたアップグレードワークフロー（標準、強度、エッジ）
- アップグレードガイドは[ここ](#)から入手できます。
- クラスタがCisco Intersightを使用して展開されている場合は、Intersightを使用します。このガイドは、[こちら](#)を参照してください。

## 考慮事項

- シスコでは、ワークフローのトラフィックが少ない時間帯やメンテナンスの時間帯にオンラインアップグレードを実行することを推奨しています。
- アップグレードが完了するまでの時間は、クラスタサイズの相対性です。
- オフラインアップグレードでは、すべてのゲスト仮想マシン(VM)がオフラインである必要があることを考慮してください。
- シスコでは、サポート終了(EOL)として現在使用されているバージョンを回避するために、新しく使用可能になったバージョンのHyperFlexリリースノートを確認することをお勧めします。
- [ここ](#)にあるCisco HyperFlexリリースノートを確認してください。

# アップグレード前ツール

HyperFlexアップグレードを実行する前にヘルスチェックを実行して、潜在的な障害を修正し、アップグレード中の予期しない動作を回避します。

これらのヘルスチェックを実行する方法は2種類あります。

## ハイパーチェック

このツールは、HyperFlexシステムでプロアクティブなセルフチェックを実行して、システムの安定性と復元力を確認するためのユーティリティです。

ハイパーチェックガイドの情報は[ここにあり](#)ます。

## Intersightヘルスチェック

これは、事前チェックに推奨される方法です。定期的に更新され、設定ミスの可能性を簡単に検出できる新しいトラブルシューティング機能が含まれています。

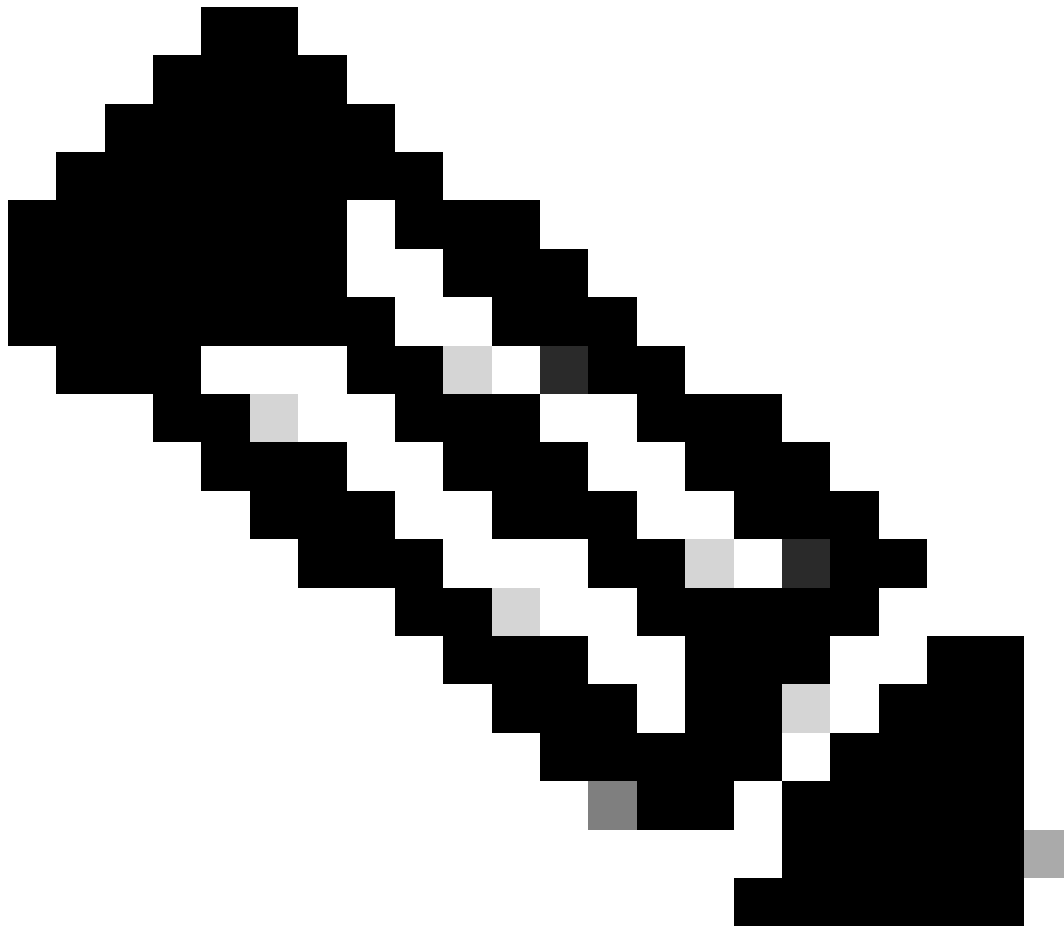
アップグレードプロセス中に新たに検出された不都合のある注意事項を常に最新の状態で検出します。Intersight HealthCheckのガイド情報は、[ここから入手](#)できます。

## Intersight HealthCheckデモ

手順 1 : Intersight にログインし、インフラストラクチャサービスに移動します。次に、HyperFlexクラスタを選択し、クラスタを選択します。

例は、San\_Joseという名前のクラスタを示しています。Actionsドロップダウンメニューで、Run Health Checkを選択します。

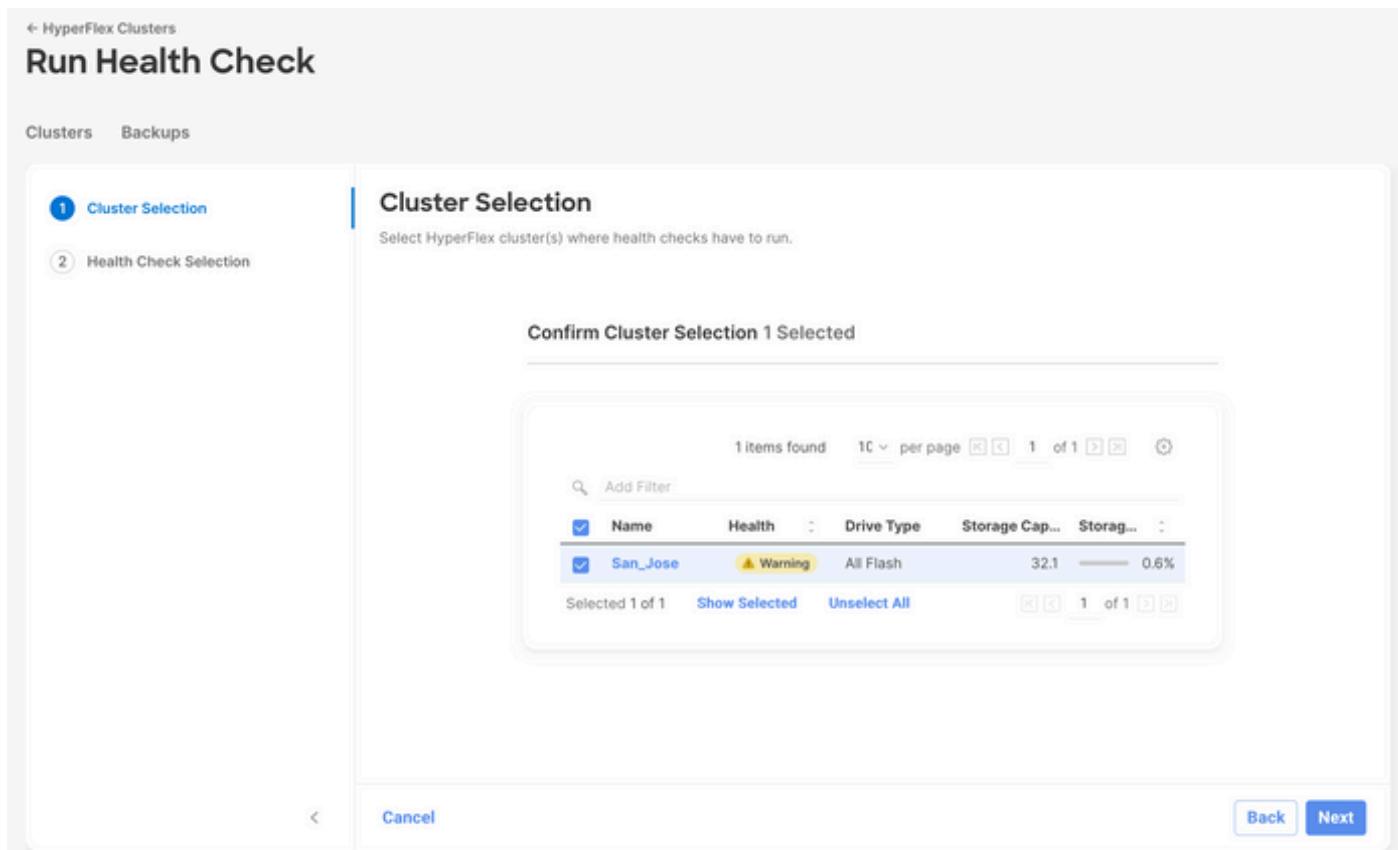
The screenshot displays the Intersight management console for a HyperFlex cluster named 'San\_Jose'. The 'Health Check' tab is active. On the left, the 'Details' panel shows a 'Warning' icon for 'Health' and a 'Healthy' status for 'Storage Resiliency Status'. The 'General' panel shows 'Resource Status' with a 'Storage Utilization TIB' gauge at 32.1 (0.2 used, 31.9 free) and a 'Capacity Runway' of 365+ days. An 'Actions' dropdown menu is open on the right, with 'Run Health Check' highlighted.



注：この例では、単一クラスタで実行されるヘルスチェックを示します。複数のクラスタのヘルスチェックを同時に選択して実行できます。

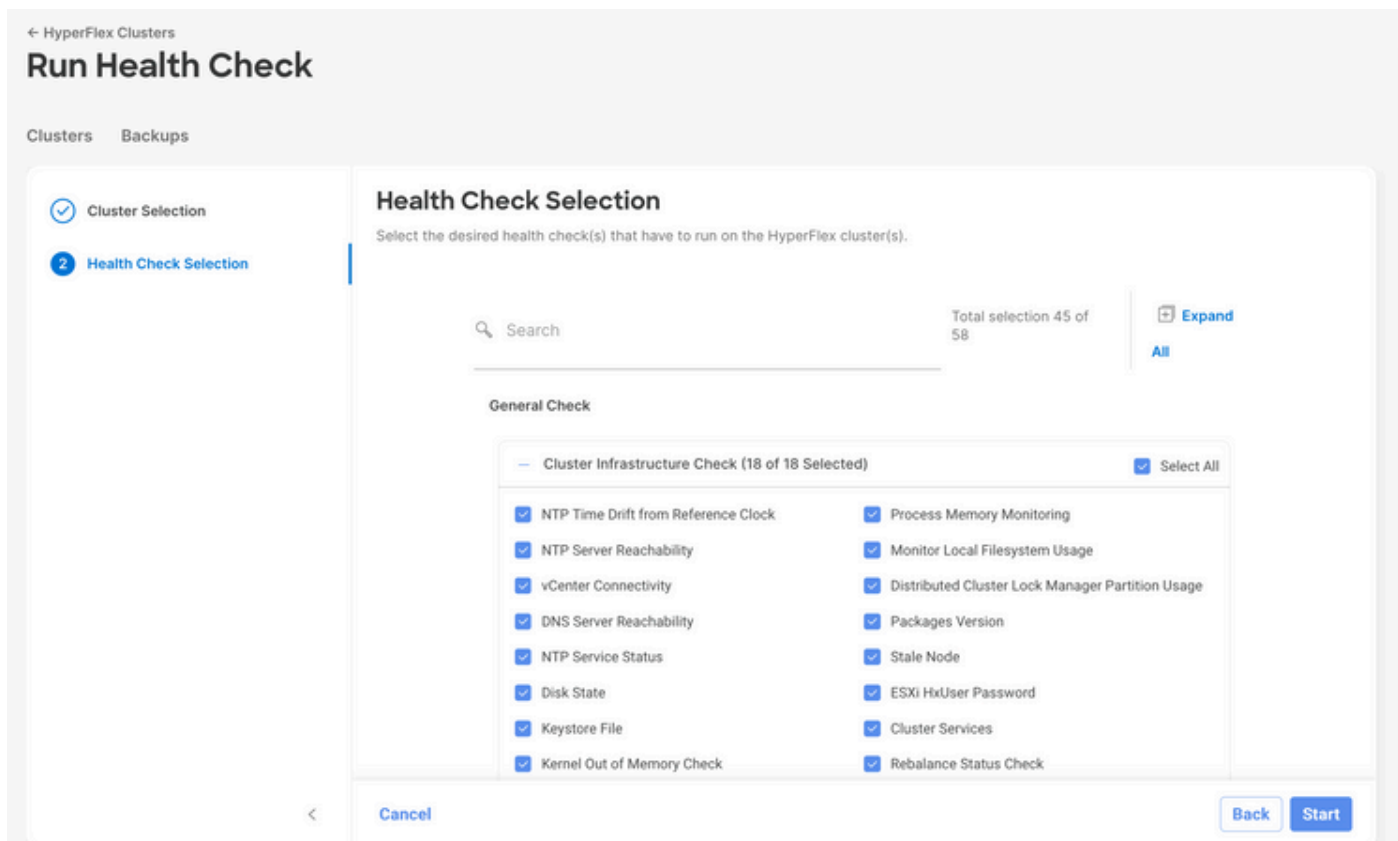
---

クラスタを確認し、Nextをクリックします。



ワークフローでは、必要に応じて一部のチェックをスキップできます。

ステップ 2 : Startをクリックして、事前チェックを開始します。



進行状況バーを確認し、HealthCheckタスクが完了するまで待ちます。

## Requests



\* All Requests +

Status In Progress x Add Filter

Export 1 items found 12 per page 1 of 1

**Status**

In Progress 1

**Execution Type**

Execute 1

Name	Status	Initiator	Target Type	Target Name	Start Time	Duration	ID	Execution Type
Run Selected Hy...	In Progress 39%	@cisco...	HyperFlex Cluster	San_Jose	a minute ago	46 s	64b083b7696f6...	Execute

1 of 1

ステップ 3 : HealthCheckタスクが完了すると、結果を確認できる場所がいくつかあります。

Health Checkタブには、一般的な結果が表示されます。この例では、フィルタリングされて Passed および Not Run の結果が表示されません。

Overview Operate Profile Capacity Planning Performance **Health Check** Actions

**Last Health Check Summary**

General Check  
1 Failed 42 Passed 3 Unknown

Security Check

Test Run Time  
Jul 13, 2023 5:09 PM

Reference  
[Learn more at Help Center](#)

**Results**

Collapsed Failed Warning Unknown Passed Not Run General Check Security Check

All

**General Check**

^ Hypervisor Check

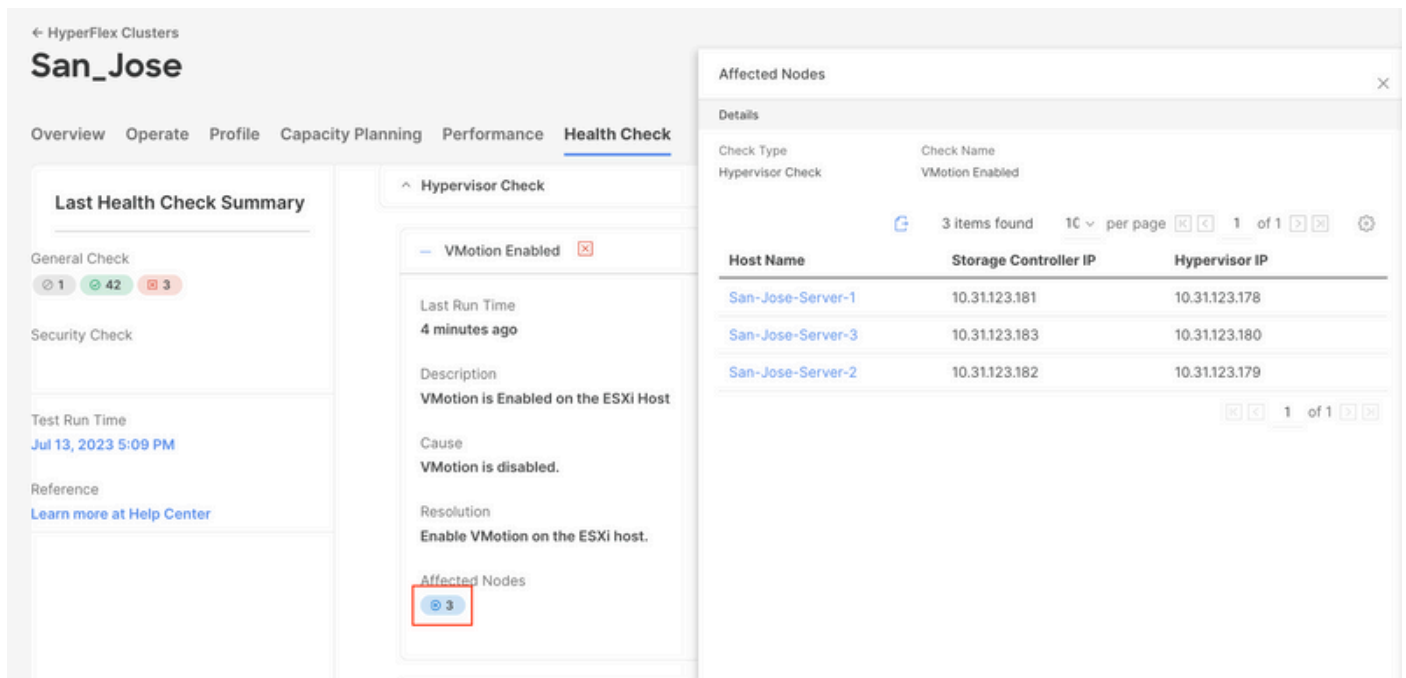
+ VMotion Enabled

+ ESXi Cross Hosts Connectivity Check

+ ESXi VIBs Check

**Security Check**

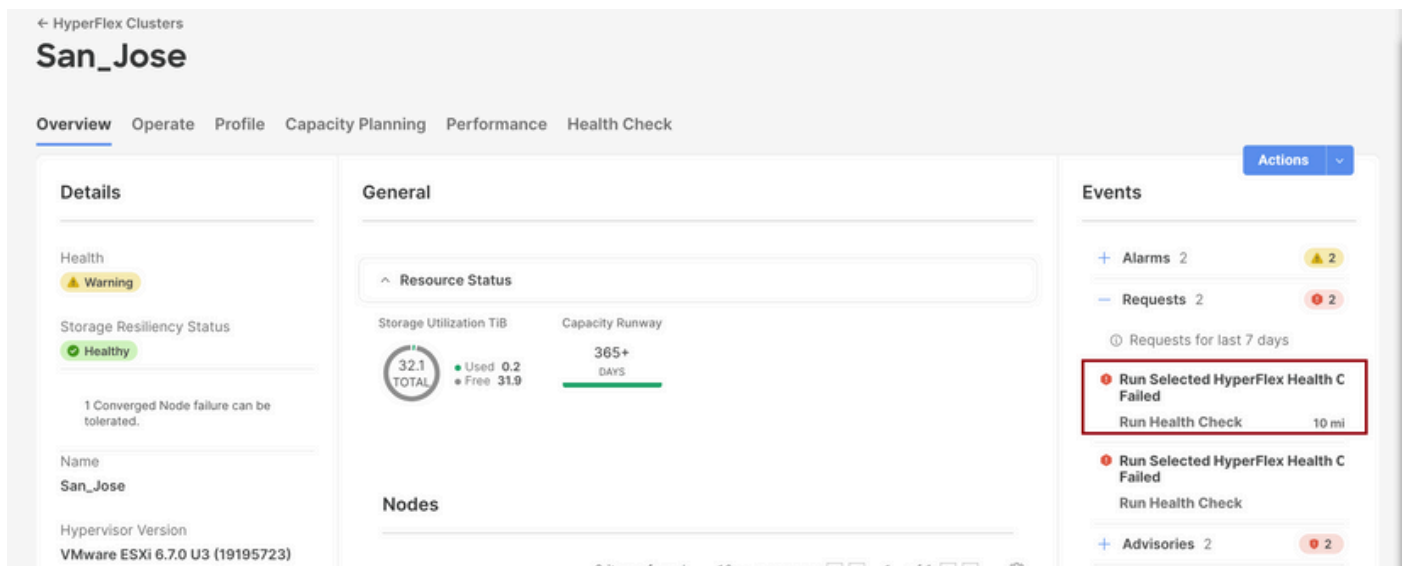
ステップ 4 : Affected Nodes をクリックして、問題のノードを確認します。



Overviewタブから、Events: Alarms、Requests、およびAdvisoriesにチェックマークを付けます。

各イベントを展開すると詳細が表示されます。

例は、要求が展開されていることを示し、選択したハイパーチェック正常性チェックの実行が失敗したことをクリックします。



成功したチェックと失敗したチェックがすべて表示されます。

ステップ 5 : Show Additional Detailsのトグルをクリックします。



## Run Selected HyperFlex Health Checks

### Details

Status

● Failed

Name

Run Selected HyperFlex Health Checks

ID

64b083b7696f6e330121fbf8

Target Type

HyperFlex Cluster

Target Name

[San\\_Jose](#)

### Execution Flow



Show Additional Details

● Validate and Update HyperFlex Cluster Health Check Execution State  
3 HyperFlex health check(s) failed or completed with warnings.  
For more information, please go to HyperFlex Clusters → San\_Jose → Health Check tab.

Invoke Check: ESXi to Controller VM Connectivity

Invoke Check: /tmp Permissions

Invoke Check: Controller Duplicate Folders

Invoke Check: VFAT Disk Usage

Invoke Check: SMART Disk Failures

Invoke Check: ESXi HX User Account

各呼び出しチェックを展開して、チェックされた内容を詳細に表示できます。

ログ、入力、および出力の詳細情報は、JSON形式で示されます。

### Execution Flow

▲ Invoke Check: VMotion Enabled

Jul 13, 2023 5:08 PM

[Logs](#)

```
1 [
2   {
3     "ConfigResCtx": {
4       "EntityName": "Jonah"
5     },
6     "Message": "VMotion is disabled on the ESXi host.",
7     "OwnerId": "{moId:64b083d8[REDACTED],instId:9d6ca46f-ae09-4eaf-[REDACTED]}",
8     "State": "Errored",
9     "Type": "Config"
10  }
11 ]
```

[Inputs](#)

```
1 {
2   "HyperFlex Cluster MOID": "6413a714[REDACTED]",
3   "HyperFlex Cluster Name": "San_Jose",
4   "HyperFlex HealthCheck Definition MOID": "63c057e[REDACTED]",
5   "HxNode MOIDs": [
6     "6413a714[REDACTED]",
7     "6413a714[REDACTED]",
8     "6413a714[REDACTED]"
9   ]
10 }
```

[Outputs](#)

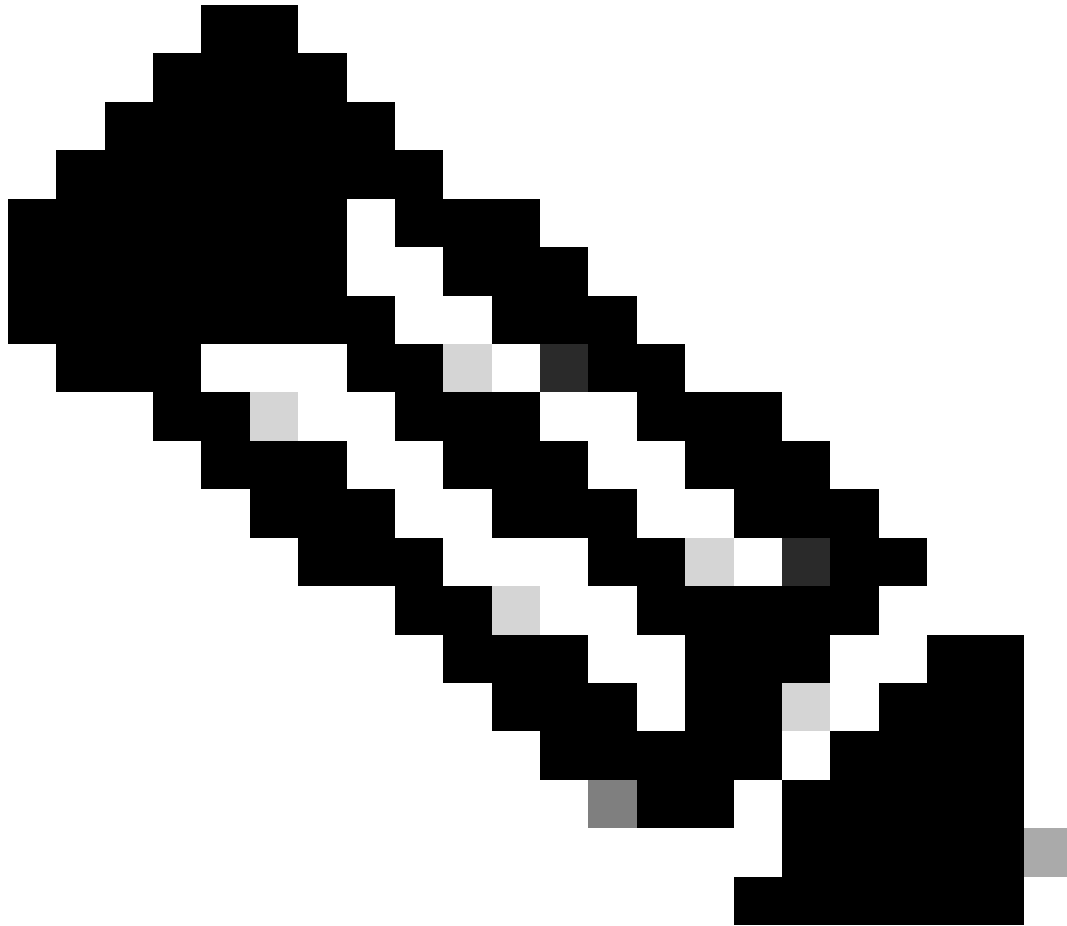
```
4   "ConfigResCtx": {
5     "EntityName": "Jonah"
6   },
7   "Message": "VMotion is disabled on the ESXi host.",
8   "OwnerId": "{moId:64b083d8[REDACTED],instId:9d6ca46f-ae09-4eaf-[REDACTED]}",
9   "State": "Errored",
10  "Type": "Config"
```

指導用ビデオ

Hpercheck [ビデオ。](#)

Intersightヘルスチェック[ビデオ](#)

---



注：一部の修正にはTechnical Assistance Center(TAC)の介入が必要です。必要に応じてケースをオープンします。

---

## 重要な検証

### UCSMでの未使用パッケージの削除

UCS Managerファームウェアマネージャでは、UCSファームウェアパッケージをFabric Interconnectのブートフラッシュパーティションにダウンロードする必要があります。コンポーネントで使用されなくなった古いファームウェアパッケージを確認して削除し、Fabric Interconnectのブートフラッシュパーティションが不要なファイルでいっぱいにならないようにし

ます。

Fabric Interconnectのスペースを確認します。

ステップ 1 : Equipmentに移動し、Fabric Interconnectsを選択してから、Fabric Interconnectを選択します。この例では、ファブリックインターコネクトA (プライマリ) を示します。

ステップ 2 : generalパネルで、Local Storage Informationを選択して展開します。

The screenshot shows the configuration page for Fabric Interconnect A (primary). The 'Local Storage Information' section is expanded, displaying the following table:

Partition	Size (MB)	Used
bootflash	16,329	79%
opt	3,877	4%
spare	5,744	6%
var_sysmgr	2,000	11%
var_tmp	600	1%
volatile	240	1%

アップストリームスイッチでスパニングツリーポート(STP)PortFastが有効にされているかを確認する

アップストリームスイッチでSTP PortFastコマンドがサポートされている場合は、イネーブルにすることを強く推奨します。PortFast機能を有効にすると、スイッチまたはトランクポートは、ただちに、またはリンクアップイベント時にSTPフォワーディングステートに入ります。これにより、リスニングステートおよびラーニングステートはバイパスされます。

PortFast機能はポートレベルで有効にされます。このポートは物理ポートまたは論理ポートのいずれかです。

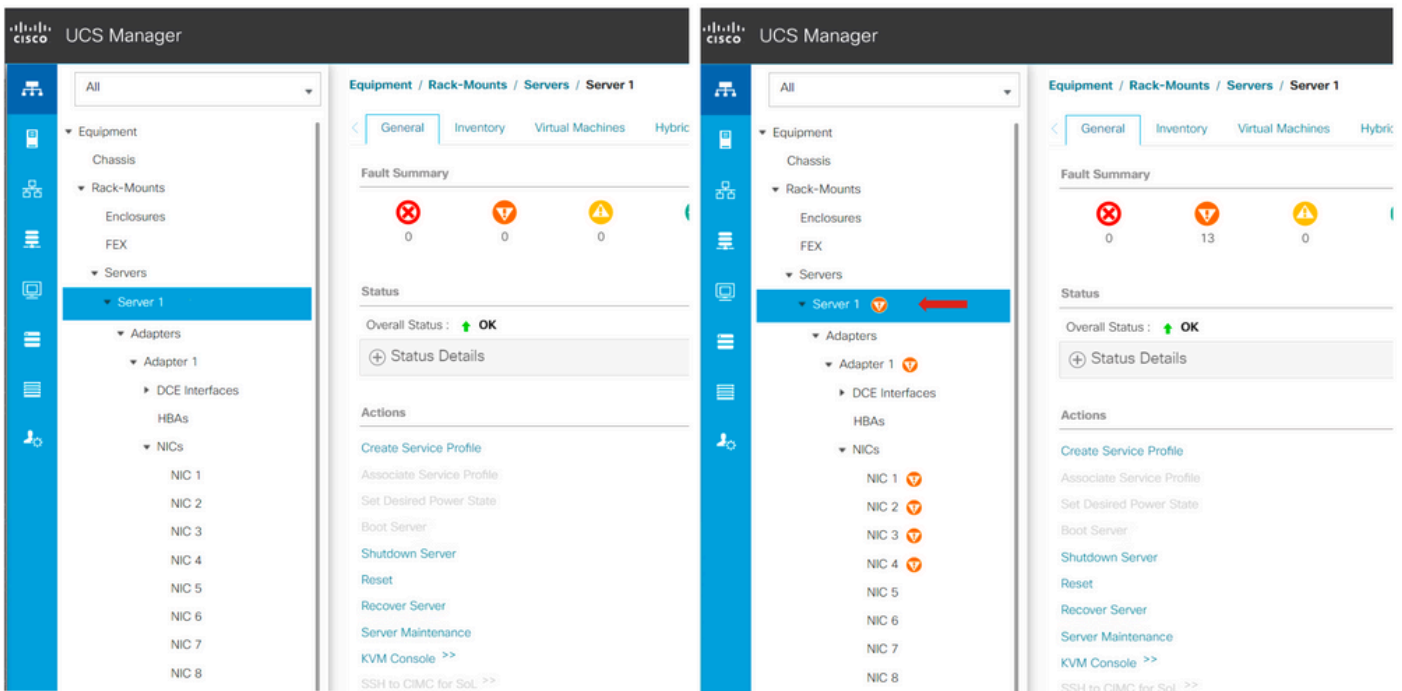
ファブリックインターコネクトポートまたはアダプタでの物理ポートエラー

UCSMで、アップリンクまたはサーバのポートのポートエラーに関連する障害を確認し、フェールオーバーの望ましくないシナリオを回避します。

ステップ 1 : UCSMにログインして、Equipmentタブに移動し、Rack-Mountsを展開して、Serversを展開します。この例では、Server 1を使用しています。

ステップ 2 : Adaptersを展開してから、NICsを展開します。

ステップ 3 : 各ネットワークインターフェイスカード(NIC)が汚れていないことを確認します。



## 標準クラスタおよび拡張クラスタでのストレージデータVLANのアップストリーム設定

ファブリックインターコネクトBがダウンした場合にフェールオーバーが実行されるように、ストレージデータVLANをアップストリームデバイスで設定する必要があります。

HyperFlexインストール[ガイド](#)に記載されているすべての要件を[確認](#)します。

## MTUおよびフェールオーバー

仮想マシンネットワークインターフェイスカード(vmnic)の両方のパスのネットワーク接続フローを確認します。



注：アップストリーム接続テストを実行するには、この[ビデオ](#)を確認してください。

---

この[ガイド](#)を使用して、UCSポリシーに基づいて正しいNICチームングが正しく設定されていることを確認します。

インフラストラクチャのアップグレード中に、ESXiアップリンクが起動するのを待ってから、他のFabric Interconnectをリポートします。

## テストアップグレードの適格性の実行

Cisco HyperFlex Release 4.0(2a)以降では、アップグレードのページに最新のクラスタアップグレードの適格性テスト結果と、UCSサーバ、HXデータプラットフォーム、またはESXiの最新テストバージョンが表示されます。

アップグレードの適格性テストを実行するには、HX Connectにログインします。

ステップ 1 : Upgrade > Test Upgrade Eligibilityの順に選択します。

ステップ 2 : UCSサーバファームウェアのアップグレードが適切かどうかをテストするには、UCSサーバファームウェアチェックボックスをオンにします。

ステップ 3 : Cisco UCS Managerの完全修飾ドメイン名(FQDN)またはIPアドレス、ユーザ名、およびパスワードを入力します。Current VersionフィールドでDiscoverをクリックし、アップグレード前に検証する必要があるUCSファームウェアパッケージのバージョンを選択します。

ステップ 4 : HyperFlexデータプラットフォームのアップグレードが適切かどうかをテストするには、[HXデータプラットフォーム]チェックボックスをオンにします。

ステップ 5 : vCenterのユーザ名とパスワードを入力します。アップグレードの前に検証する必要があるCisco HyperFlex Data Platformアップグレードバンドルをアップロードします。

手順 6 : ESXiチェックボックスをオンにして、ESXiのアップグレードが適切かどうかをテストします。

手順 7 : vCenter管理者のユーザ名とパスワードを入力します。アップグレードの前に検証する必要があるCisco HyperFlex Custom Image Offlineバンドルをアップロードします

ステップ 8 : [検証]をクリックします。

ステップ 9 : アップグレード適格性テストの進行状況が表示されます。

## ユーザとパスワードの検証

パスワードの確認:

- vCenter管理者
- ESXiルート
- ストレージコントローラ仮想マシン(SCVM)のadminおよびroot

## メンテナンスモードへの切り替えの検証

メンテナンスモードの操作中に、ホストで実行されているバーチャルマシンを別のホストに移行できることを確認してください。VMを移行できない場合は、電源を切る必要があります。VMが自動的に移行されないが、手動で移行できる場合は、DRSに関連する問題があるかどうかを確認します。

DRSが有効になっていて、DRSのライセンスがある場合は完全に自動的に設定されていることを確認します。DRSが無効になっている場合、アップグレードプロセスでプロンプトが表示されたら、手動でVMをvMotionする必要があります。

詳細については、VMwareの[ガイド](#)を参照してください。

## vMotion設定の確認

メンテナンスモードタスクが完了しないように、vMotionが適切に設定されていることを確認します。

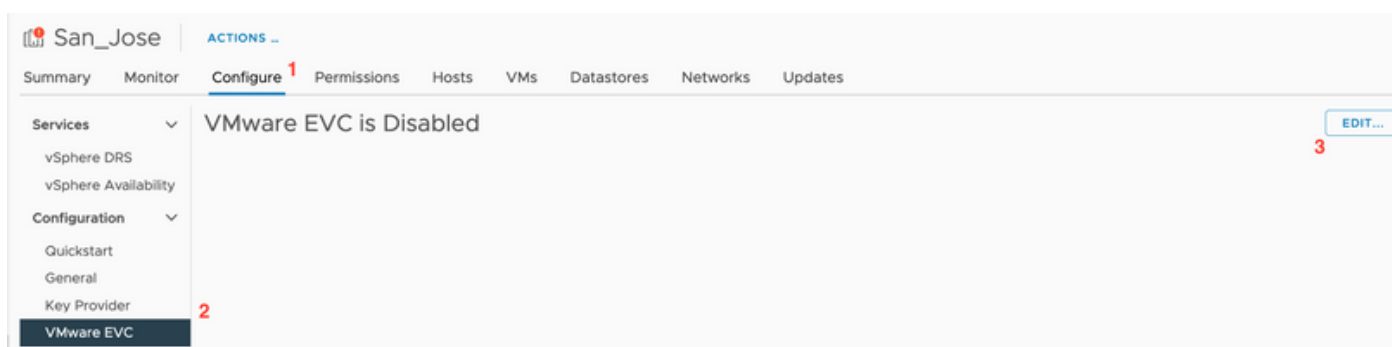
vMotionのトラブルシューティングの詳細については、[ここ](#)を参照してください。

クラスタでEVC(Enhanced VMotion Compatibility)が有効になっていることを確認します。

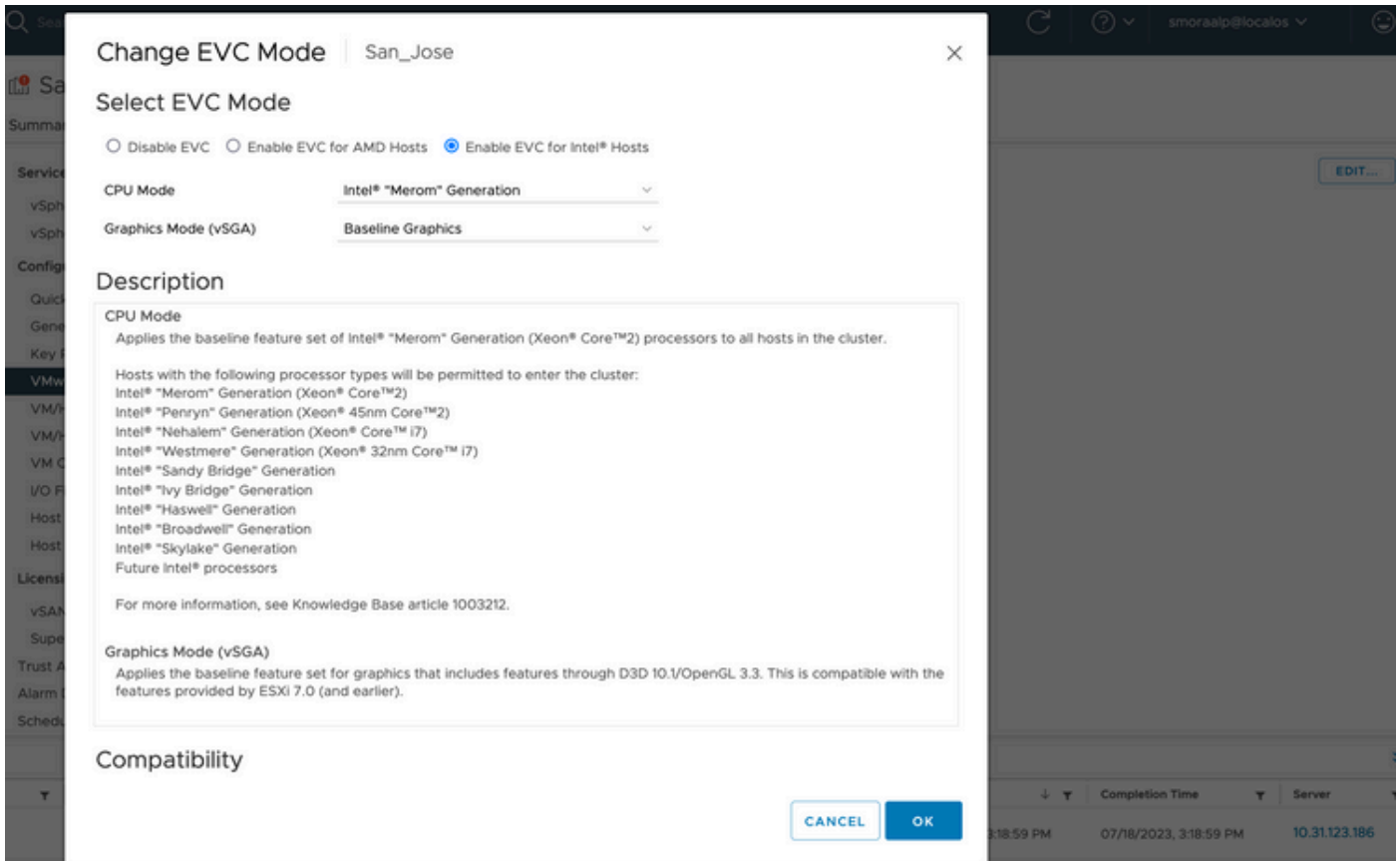
ステップ 1 : VMware vCenterにログインし、Home and Clustersに移動します。

ステップ 2 : vCenterクラスタをクリックします。この例では、San\_Joseという名前のクラスタを示します。

ステップ 3 : Configureを選択し、Configurationの下でVMware EVCをクリックして、EDITを選択します。



ステップ 4 : 使用するプロセッサごとにEVCモードをEnabledに変更してください。



## 仮想マシン(VM)でのアフィニティルールの確認

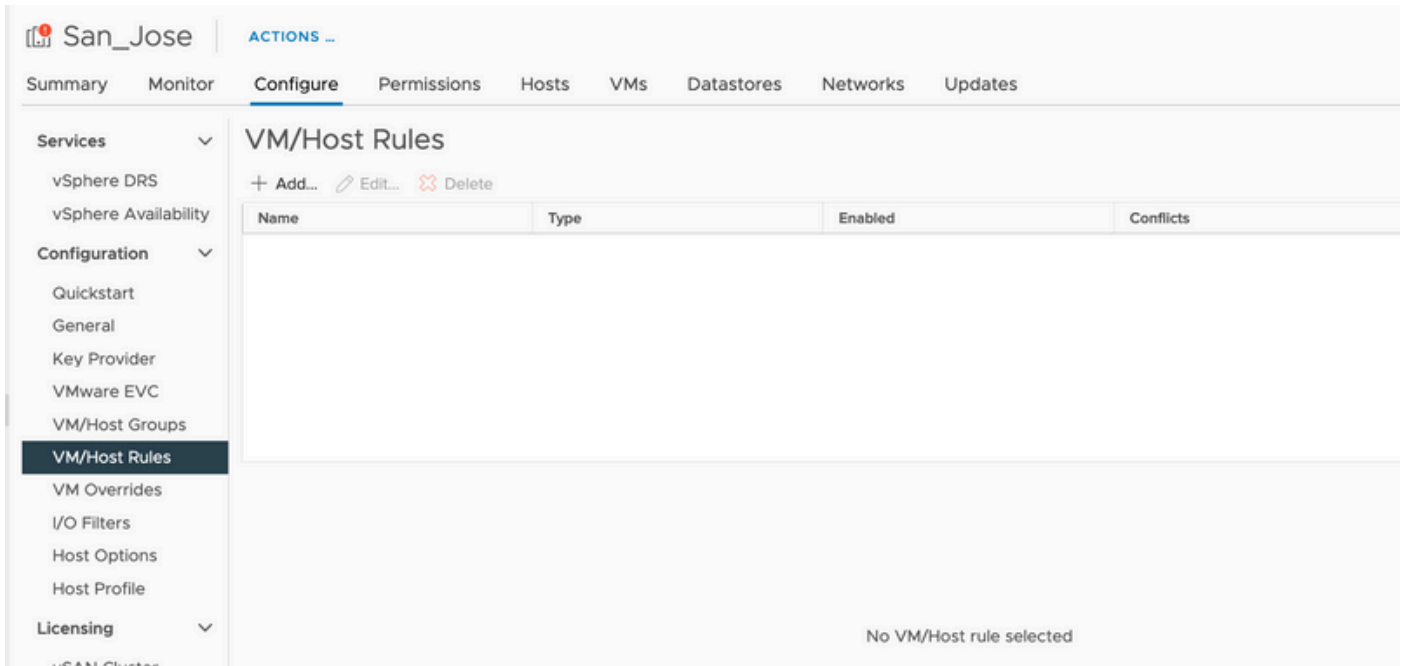
ゲストVMでアフィニティルールが作成されているかどうかを確認します。

ステップ 1 : VMware vCenterからクラスタに移動します。

ステップ 2 : Home and Clustersに移動します。この例では、San\_Joseという名前のクラスタを示します。

ステップ 3 : Configureを選択します。ConfigurationでVM/Host Rulesを選択し、ルールが作成されたことを確認します。





## ESXiエージェントマネージャ(EAM)

HXDP 5.0(x)以降のリリースでは、EAMはSCVMネットワークとデータストアを管理するためにESXiホストで使用されなくなりました。

HXDP 5.0(x)以前のバージョンでは、ネットワークとデータストアにSCVM情報が必要です。

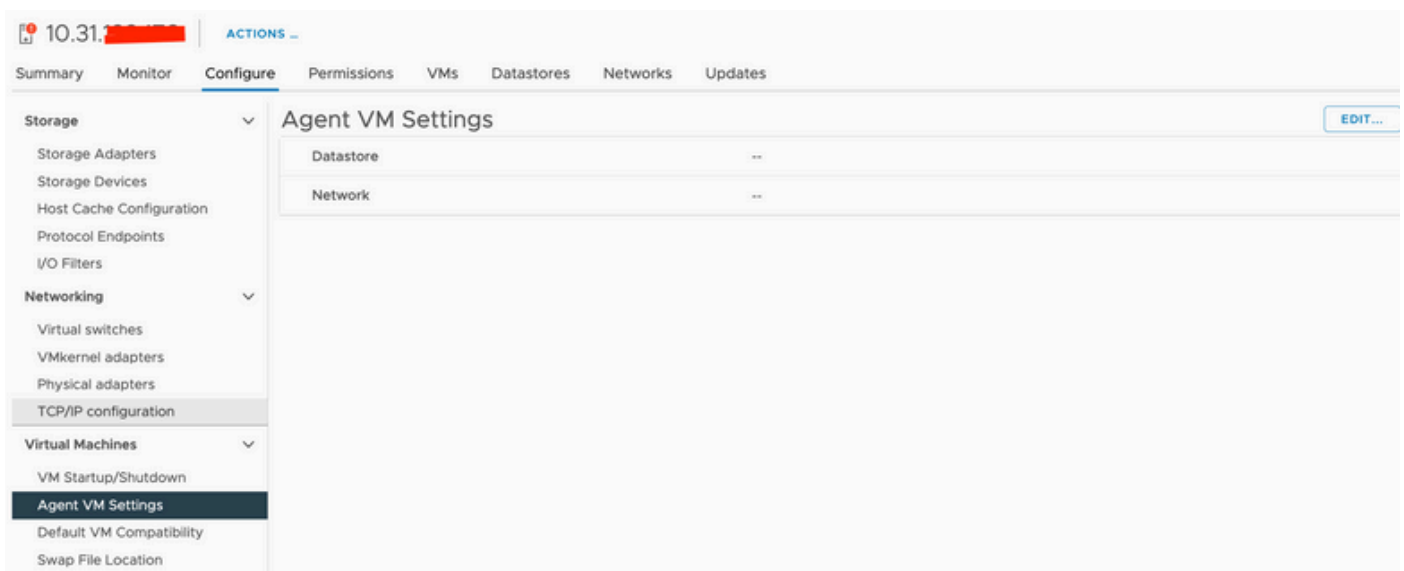
ESXi Agent Manager(EAM)の状態が正常であることを確認します。

ステップ 1 : VMware vCenterにログインします。

ステップ 2 : Home and Clustersに移動して、各ESXiノードに移動します。

ステップ 3 : VMware vCenterクラスターで、Configureに移動し、Virtual MachinesからAgent VM Settingsを選択します。

この例では、HyperFlexクラスターが5.0(2c)上にあるため、空白が表示されています



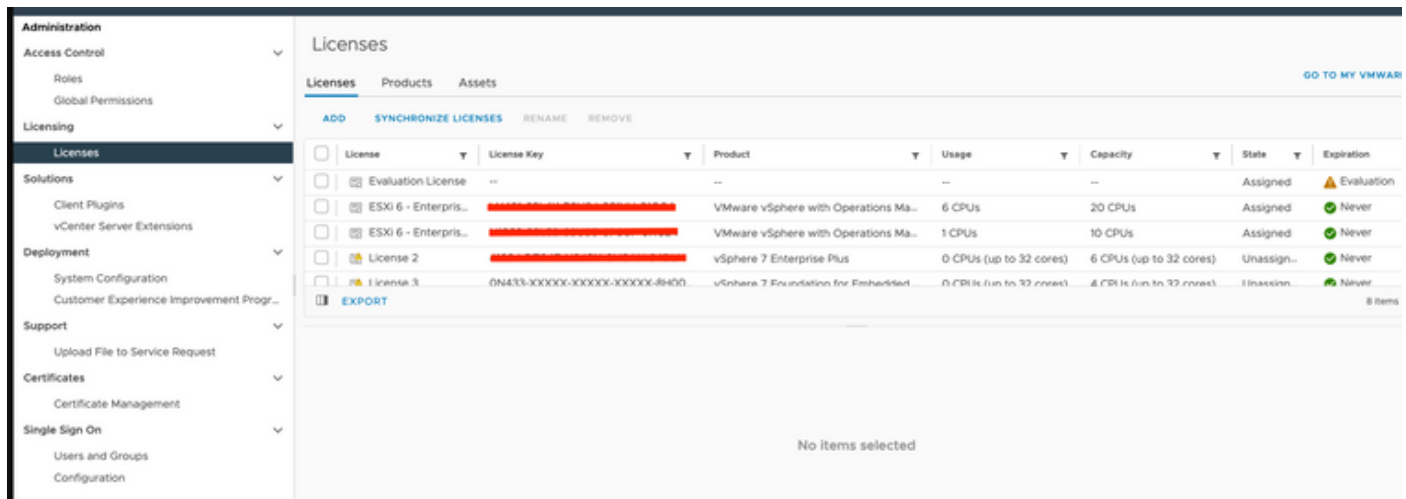
EAMを使用する場合、vCenterに証明書エラーが表示されていないことを確認します。

詳細なEAM情報については、[ここ](#)を参照してください。

## vCenterおよびESXiライセンス

6.xから7.0にアップグレードする場合は、アップグレードの前に新しいライセンスがあることを確認します。

アップグレード後は、評価モードが60日間しか有効になりません。



## SSHの推奨事項

### HXUSERロックアウト

ログインに失敗すると、ESXiユーザがロックされる可能性があります。

hxuserまたはrootユーザーのステータスを確認するには

ステップ 1 : ESXiノードでrootとしてSSHセッションを開きます。

ステップ 2 : pam\_tally2 --user hxuser ( またはroot user ) を実行します。

ステップ 3 : hxuserまたはrootがロックされていることを確認します。

```
[root@esxi1:~] pam_tally2 --user hxuser
Login Failures Latest failure From
hxuser 0
[root@esxi1:~] pam_tally2 --user root
Login Failures Latest failure From
root 0
[root@esxi1:~]
```

指定されたESXiユーザのロックを解除するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 : pam\_tally2 —user hxuser —reset ( またはroot user ) を実行します。

ステップ 2 : Failuresカウントが0に減ることを確認します。

```
[root@esxi1:~] pam_tally2 --user hxuser --reset
Login Failures Latest failure From
hxuser 0
```

```
[root@esxi1:~] pam_tally2 --user root --reset
Login Failures Latest failure From
root 0
```

## ロックダウンモードまたは停止

ESXiホストのセキュリティを強化するには、ロックダウンモードを有効にする必要があります。この設定により、HyperFlexクラスタのアップグレードで無効にする必要があるロックダウンモードに起因するHyperFlexのアップグレードが防止されます。

ESXiロックダウンモードを無効にするには、次の手順を実行します。

ステップ 1 : SSHをrootとして直接ESXiホストに実行します。

ステップ 2 : Initial Setupを表示するにはF2キーを押します。

ステップ 3 : ルートクレデンシャルを入力してDUCI設定を開きます。

ステップ 4 : Configure Lockdownモードに移動し、disabledに変更します。

vCenterからロックダウンモードを無効にするには、

ステップ 1 : vSphere Web Clientインベントリ内のホストを参照します。

ステップ 2 : Managetabをクリックし、Settingsをクリックします。(6.7の場合は、Configuretabをクリックします)。

ステップ 3 : Systemの下で、Security Profileを選択します。

ステップ 4 : ロックダウンモードパネルでEditをクリックします。

ステップ 5 : Lockdownモードをクリックし、ロックダウンモードオプションのいずれかを選択します。

ロックダウンモードの詳細については、[ここ](#)を参照してください。

## 複製

レプリケーションが設定され、有効になっている場合は、アップグレードの前に一時停止する必要があります。

run stcli dp schedule pauseコマンドを使用してレプリケーションを一時停止し、アップグレード後にstcli dp schedule resumeコマンドを使用してレプリケーションを有効にします。

## ドライブ障害

ドライブ障害が発生すると、HyperFlexクラスタのアップグレードが失敗します。HyperFlex Connect GUIでブロックリストまたは無視されたディスクを確認するには、次の手順に従います。

。

ステップ 1 : HyperFlex接続のGUIを開き、https://<HyperFlex-virtual-ip-address or fqdn>に移動します。

ステップ 2 : System Informationに移動し、次にSystem Overviewタブを選択します。

ステップ 3 : ディスクエラーがないかどうかを確認します。

The screenshot shows the 'System Overview' tab in the HyperFlex Connect GUI. The system 'San\_Jose' is ONLINE. Below the system information, there is a 'Hyperconverged Nodes' section. A red box highlights the 'Disk Overview' for 'San-Jose-Server-1', which shows 11 disks in use and 15 empty slots. The disks are numbered 1 through 26, with the first 11 being blue (in use) and the remaining 15 being grey (empty).

Node	Hypervisor	HyperFlex Controller	Disk Overview ( 11 in use   15 empty slots )
San-Jose-Server-1	Online	Online	1-11 (in use), 12-26 (empty)
HXAF240C-M45X	6.7.0-19195723	4.5.2e-39752	

ディスクの問題は、Cisco TACで修正する必要があります。

## 以前のマザーボードの交換、再導入、およびノードの削除

マザーボードの交換により、以前のホストUIDも新しいIDに置き換えられます。交換タスク中に何らかの問題が発生した場合は、UIDの不一致が原因でHyperFlexのアップグレードが失敗する可能性があります。



注：Intersight HealthCheckはIDの不一致についてアドバイスします。HyperFlexクラスタをIntersightに接続してHyperFlexクラスタHealthCheckを実行することを強くお勧めします。

---

マザーボードの交換については、ESXi CLIのstNode UUIDを比較し、UUID情報がHyperflexクラスタのUUIDと一致することを確認します。

UUIDを収集するには、次の手順を実行します。

ステップ 1：rootとしてESXiノードへのSSHセッションを開きます。

ステップ 2：hostsvc/hostsummコマンドを実行します。| grep -i uuid | grep -v instを実行します。

ステップ 3：UUID情報を収集します。

```
[root@esxi2:~] vim-cmd hostsvc/hostsumm | grep -i uuid | grep -v inst
```

```
    uuid = "1f82077d-6702-214d-8814-e776ffc0f53c", <----- ESXi2 ID
[root@esxi2:~]
[root@esxi2:~]
```

HyperFlexクラスタノード上のUUID情報を取得するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 : HyperFlexクラスタのIPアドレスにSSHを実行します。

ステップ 2 : コマンドstcli cluster infoを実行します。 |が表示されます。

ステップ 3 : stNodes IDを収集します。

```
hxshell:~$ stcli cluster info | more
stNodes:
-----
id: c4a24480-e935-6942-93ee-987dc8e9b5d9
type: node
name: esxi1
-----
id: 1f82077d-6702-214d-8814-e776ffc0f53c <----- ID for ESXi2
type: node
name: esxi2
-----
id: 50a5dc5d-c419-9c48-8914-d91a98d43fe7
type: node
name: esxi3
-----
```

stcliクラスタ情報 IDがESXiノードに表示される情報と一致することを確認します。

## HXとvCenterの不一致

HyperFlexクラスタ上のデータセンター、クラスタ、データストアなどのvCenter情報がvCenterと一致することを確認します。情報の不一致により、HyperFlexクラスタのアップグレードが失敗します。

最新の情報を入手するには、次の手順に従います。

ステップ 1 : adminとしてHyperFlexクラスタIPにSSHを実行します。

ステップ 2 : stcliクラスタ情報の実行 | grep -i vcenterを実行します。

ステップ 3 : クラスタ内の登録済みvCenter情報を収集します。

```
hxshell:~$ stcli cluster info | grep -i vcenter
```

```
vCenterClusterName: vcenter-cluster
vCenterDatacenter: hx-cluster-name
vCenterURL: https://vcenter-url
vCenterDatacenterId: datacenter-name
vCenterClusterId: domain-c5124
vCenterUrl: https://vcenter-url
vCenterVersion: 7.0.2 Build-18455184
```

## HyperFlex vCenter再登録

名前では大文字と小文字が区別されることを考慮してください。前の出力の名前とvCenter情報が一致しない場合は、vCenterの再登録が必要です。

vCenterをHyperflexクラスタに再登録するには、[ここ](#)にあるvCenter登録ビデオを確認してください

Vcenterを再登録するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 : adminとしてクラスタのIPアドレスにSSHを実行します。

ステップ 2 : stcli cluster reregisterコマンドを実行します。

```
stcli cluster reregister [-h] --vcenter-datacenter NEWDATACENTER --vcenter-cluster NEWVCENTERCLUSTER --
hxshell:~$ stcli cluster reregister --vcenter-datacenter MyData-Center --vcenter-cluster Cluster-Name -
Reregister StorFS cluster with a new vCenter ...
Enter NEW vCenter Administrator password:
Cluster reregistration with new vCenter succeeded
hxshell:~$
```

## 関連情報

- [Hyperflexクラスタのヘルスチェック](#)
- [ハイパーチェックの実行 : Hyperflex Health & Pre-Upgrade Check Tool](#)
- [テクニカル サポートとドキュメント - Cisco Systems](#)

## 翻訳について

シスコは世界中のユーザにそれぞれの言語でサポート コンテンツを提供するために、機械と人による翻訳を組み合わせて、本ドキュメントを翻訳しています。ただし、最高度の機械翻訳であっても、専門家による翻訳のような正確性は確保されません。シスコは、これら翻訳の正確性について法的責任を負いません。原典である英語版（リンクからアクセス可能）もあわせて参照することを推奨します。